

2020年7月31日

Vol
138

売買のタイミングを計らない投資手法って？ 制度も活用した「本気の積立」を始めませんか。

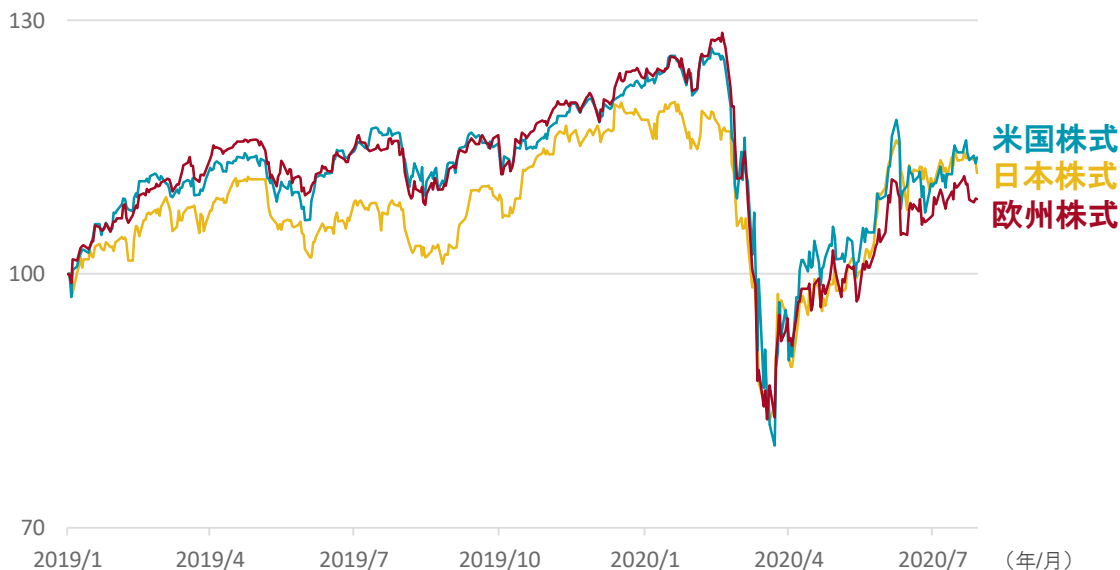
主要国の代表的な株価指数は、3月半ばを底値に大きく反発し推移しています*。一方で足もとでは、新型コロナウイルスの感染者数が世界的に増加傾向であり、第2波を懸念する声が高まっています。

コールセンターにも「いずれまた下がるのではないか」、「下がってから買った方がいいのではないか」というお問い合わせが多く寄せられています。たしかに、底値で買うことは理想なのですが、容易なことではありません。

そこで少し視点を変えて、売買のタイミングを計らない投資手法をご紹介します。

* 2020年7月29日現在

■ 日米欧の株価指数の推移



期間：2019/1/1～2020/7/29(日次) グラフ起点を100として指数化
 日本株式：日経平均株価、米国株式：NYダウ30種、欧州株式：STOXX欧州600指数(すべて現地通貨ベース)
 出所：信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
 ※データは過去のものであり将来の運用成果などを約束するものではありません。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



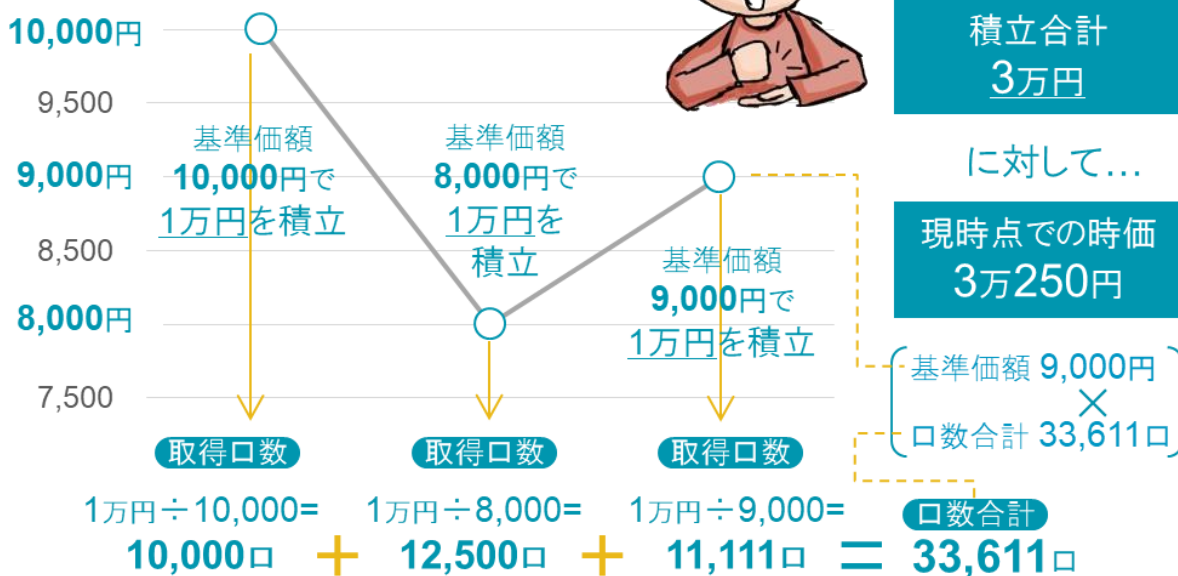
コールセンターからの小さなよみもの

売買のタイミングを計らない投資手法とは？

毎月コツコツと同金額ずつ投資信託を買い増していく、投信積立をご紹介します。

投資信託は口数で買付けるため、毎月同金額の積立を行なうと、基準価額が高いときには少ない口数を、安いときには多くの口数を取得します。安いときに多くの口数を「溜める」ことが、その後反発した時に大きな効果を発揮します。下のグラフを見ると、積立開始時と比べて基準価額はマイナス(10,000円→9,000円)なのに、時価評価額はプラス(30,000円→30,250円)になっていることが分かります。もちろん、「下がって口数が増えたあとに上がっていること」がポイントなのですが、投信積立はある意味で、「下がっても嬉しい仕組み」だと言えるのです。

■投信積立の不思議のワケ



※基準価額は1万口当たりで表示する慣習があるため、取得口数を求める際には最後に10,000を掛けます。
 ※手数料等を考慮していません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



コールセンターからの小さなよみもの

実は、投信積立には活用できる制度があるんです。

投信積立は、制度を活用して始めることをお勧めします。

具体的には、「iDeCo(個人型確定拠出年金)」と「つみたてNISA」です。いずれの制度も投資信託を活用した資産形成を国がサポートするものであり、拠出金が全額所得控除されたり、非課税期間が設けられていたりとさまざまなメリットがあるので、ぜひとも有効に活用したい制度です。

iDeCo(個人型確定拠出年金)	つみたてNISA
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 年金や一時金の受け取りは60歳以降しかできない代わりに、拠出金の所得控除と非課税投資ができる「自分年金投資枠」 ◆ 会社の企業年金の形態によっては、大企業を中心に「実は制度を使えない会社員」も多かったが、2022年10月からは、全ての会社員に加入が認められるように。自営業者や公務員、主婦は使える。 ◆ 拠出限度額は、加入資格区分(国民年金の被保険者の第1号～第3号の種別や勤め先の企業年金の違い)によって異なるが、会社員の場合月約1.2～2.3万円。(自営業者は6.8万円) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 2018年から始まった新しいNISA—少額投資非課税制度。 ◆ 日本に居住している20歳以上であれば利用できる。従来のNISA(年120万円×非課税期間5年)との選択制のため、同じ年に両方を使うことはできない。 ◆ 年40万円を限度に20年間の非課税期間。非課税投資枠は20年間で最大800万円。拠出限度額は、月約3万円程度。

※国民年金基金連合会、金融庁などの各種情報をもとに日興アセットマネジメント作成



■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



コールセンターからの小さなよみもの

制度も活用した、「本気の積立」をお勧めします！

ただし、いずれの制度も毎月の拠出限度額が定められていることには注意が必要です。将来のための資産形成を考えた場合、はたして制度を活用するだけで十分なのでしょうか。下の表は、毎月〇万円ずつ積立てを続け、〇%の固定利回りで運用できたらお金はどれだけ増えるのかを表した皮算用です。3万円×20年×年4%であれば、約1,100万円。確かに大きな金額ではありますが、将来のためのお金と考えると物足らないと感じる方も少なくないかもしれません。もし、毎月5万円ずつ続けると、同じ条件で約1,800万円です。これくらいであれば、例の「2,000万円問題」に対する一つの答えにもなりそう。このように、コツコツ×「本気の積立」は、侮れないパワーを持っているのです。

■ 固定利回りでの毎月積立皮算用ーコツコツはいくらになるのか？

期間と 年利回り	20年			30年		
	積立月額	0.01%	4%	8%	0.01%	4%
3万円	721万円	1,104万円	1,779万円	1,082万円	2,089万円	4,501万円
5万円	1,201万円	1,840万円	2,965万円	1,803万円	3,482万円	7,501万円
7万円	1,682万円	2,576万円	4,151万円	2,524万円	4,875万円	10,502万円

※計算は1か月複利計算で、税金・手数料は考慮していません。

※資産運用に関する考え方を示すことを目的としたものであり、特定商品の利回り等を保証・示唆するものではありません。



■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。

日興AMファンドアカデミー



「本気の積立」、始めてみませんか。

もちろん、先ほどの皮算用は固定利回りのシミュレーションですから、常にリターンが変動する投信積立の場合は、表のとおりになることは絶対にありません。

ですから、この表は、「預貯金に期待できないリターンを得るには、リスクをとる必要があるんだ」と覚悟し「やるからには本気の金額で始めよう」と、「本気の積立」を決意するための、あくまでも皮算用と考えるのが正解です。でも実は、こうした皮算用をもとに資産形成を考えることが大切なのではないかと日興アセットは考えています。制度も活用した、「本気の積立」を始めてみませんか。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

